

☆☆ 田代英夫さん（副会長） ☆☆

冷ややかに坑道縦横無尽なる

『オール読物』（平成 15 年 11 月号）で特選に入った田代さんの作品である。退職後に始めたというこの俳句が半端ではない。同誌への初入選は「いつの間にまた咲いている木槿かな」という句で、近年はより凄みが増して「下野新聞」や「栃木よみうり」等の俳壇に度々登場している。一方で、田代さんはサッカー界の重鎮としてつとに知られた存在である。教員生活はすべてサッカー人生と重なり、特に熟田中学を 2 度も県大会優勝に導くなど、指導者としての実績は華やかだ。今はその教え子達がこの地域のサッカーを支えている。いわばサッカー界の名伯楽である。そして、日本野鳥の会県支部入会。これも熟田小校長時代に同校が「愛鳥モデル校」に指定されたのが野鳥への関心の始まりだとか。何事にも熱心に取り組まれるので、成果を挙げるのも早い。



この野鳥の会のグループが、うじいえ自然に親しむ会発足の原動力になっていくのだが、田代さんはその準備の最初の段階からのメンバーである。誠実な人柄で、副会長として会長をよく補佐し、当会発展の功労者の一人である。

当会の様々な活動の中でもユニークで誰からも高く評価されているのが勝山や草川 16 号道路等での樹木の名札付けであろう。大変な労苦を伴い、頭の下がるこの活動の発案者が「すべては名前を知ることから始まる」という田代さんなのである。

俳句や野鳥観察、どちらも自然と優しく向き合うものであり、それは親しむ会での活動にも棒のように貫かれている。そして、サッカーへの熱い情熱は今なお衰えていない。田代さんは奥の深い、たくさんの引き出しを持っている人である。

（庶務：さくら市ミュージアム 副館長 中野 英男）